

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	黒田 訓宏
論文担当者	主査 新村 健
	副査 若林 一郎
	副査 木村 卓
学位論文名	Relationships between time in range, glycemic variability including hypoglycemia and types of diabetes therapy in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: Hyogo Diabetes Hypoglycemia Cognition Complications study. (日本人2型糖尿病患者における time in range、低血糖を含めた血糖変動と糖尿病治療との関連: HDHCC study)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>持続グルコースモニタリング (CGM) での血糖管理指標である、time in range (TIR) や time below range (TBR) は、2 型糖尿病患者において HbA1c を補完する有用な臨床指標であることが明らかにされた。そこで、本研究では TIR や血糖変動と 2 型糖尿病患者の臨床像との関連を検討した。</p> <p>対象は多施設共同前向きコホート研究、HDHCC study に参加した 40 歳から 75 歳までの 2 型糖尿病患者 281 名である。CGM はフリースタイルリブレプロを使用し 14 日間の血糖変動を測定した。まず糖尿病罹患期間に基づき検討を行ったところ、罹患期間が長くなるにつれて糖尿病治療薬多剤併用患者が増え、HbA1c、TIR が有意に悪化した。次に 65 歳未満の非高齢者 (91 例) と 65 歳以上の高齢者 (181 例) で比較したところ HbA1c は両群で差を認めなかったが TBR は高齢者群で有意に低率だった。</p> <p>TIR を目的変数として重回帰分析を行った結果、TIR の説明変数として HbA1c、罹患期間、尿中アルブミン排泄率、糖尿病性末梢神経障害が有用であった。さらに高齢者群において TBR を目的変数として重回帰分析を行った結果、TBR の説明変数として BMI、HbA1c、重症低血糖発症リスクが高い糖尿病治療薬 (SU 薬、グリニド、インスリン製剤) の使用が有用であった。</p> <p>本研究から、罹患期間と糖尿病性合併症が TIR の悪化と密接に関連する可能性と、HbA1c 値や低血糖発症リスクが高い糖尿病治療薬の使用が高齢者における TBR の増悪に結び付く可能性が示唆された。2 型糖尿病の実臨床、特に高齢者における血糖管理における CGM 各指標の有用性を明らかにしたことから、本研究は学位に値するものと評価された。</p>	